

三十九

五月三日

又

驛遞寮雇米人ブライアンノ給料ヲ増シ期限ヲ延ハシ且郵便事業教授ノ為月謝金ヲ給與ス

内務省伺

米國ト郵便交換定約ノ儀ハ別紙驛遞寮御雇米人ブライアン氏具陳ノ通萬國對等ノ權利ヲ與復スルノ一大起原ニシテ又他ノ各國ヲシテ此締約ヲ成サシムルノ一大模範タルハ今更喋々ヲ談サル儀ニシテ且吾邦出ノ郵便ヲシテ太平洋ノ運送無債ナラシメ又各般ノ方法ヲ簡易ニシ費用ヲ減省セルカ如キモ同氏ノ米國政府ヘ協議ノ宜シキ周旋ノ厚キニ相依リ候儀モ亦別ニ疑ヲ容レサル一ニ候

今ニシテ之ヲ回顧スレハ當時中外ノ人多クハ此

三十九

三十九
大文員録

成約ノ議セサリシニ唯此締約ノ完成セルノミナ
ラス太平洋ノ運送無賃ノ如ク特殊ノ利益ヲ生セ
シハ固ヨリ皇運隆盛ノ致ス所ト雖氏亦同氏ノ力
大ナリト云テ可然儀ト存候

又開業實施ノ後ニ至リ候テハ事務ノ繁劇時トシテ
奉仕終宵ヲ徹スルニ至リ且其責任ノ輕カラサルモ
能ク其任ニ堪耐シ能ク衆庶ノ望ヲ充タシテ吾郵便
ノ稱譽ヲ未タシ候儀モ相違無之候

英國政府ヨリ來書ニ米國ト此締約實施ノ景況ニ
因テ協議云々ノ趣モ有之又佛國ニ於テモ同様ノ
場合ニ付殊ニ同氏ノ責任不輕其關係モ不少候
前條ノ次第ニ付能ク其實況ヲ詳量セハ政府ニ於テ
モ幾何カ其功勞ヲ賞セラレ候テ可然歟又同氏ニ於

テモ幾許カ其増給ヲ請願可仕ノ理モ可有之様被存
候

同氏陳述ノ如キ他ノ御雇外國人ノ中其功業責任
ヲ把テ拙者ノ功業責任ニ比スレハ十テ一ニ足ラ
サル者ト同額ノ俸給御給與云々ハ少シク誇言ニ
相見ヘ候ヘ氏其同國人ニテ開拓使或ハ大藏省等
ニ雇ハレ候者ト其事務ノ繁劇責任ノ輕重事業ノ
成否ト其月給ノ多少ヲ比例セハ自ラ是等ノ語氣
モ相資可申或ハ實況可然哉ト被存候

然レ氏今同氏ノ俸給ヲ増加相成候ハ、其實況ニ注
目セス唯其外聲ニ就テ他ノ差響ニモ可相成又年限
ニ於テモ是ヨリ先五ヶ年ニテハ長キニ相過キ且英
佛日等ノ締約不相濟間ハ未タ成業トハ謂フヘカラ

サル次第ニ付別段御賞ニモ不及儀ト存候
 然氏全ク奨励ノ術モ無之候テハ同氏ノ氣合ヲ損シ
 自ラ現今將來事務ノ不都合ヲ生シ金貸ヲ以テ補フ
 ヘカラサル損失英佛等ノ關係ヲ成シ候儀モ可有之哉ト聞
 心致候間左ノ通り御蒙分相成候テハ如何可有之哉
 英佛日ノ條約相成候上ニテ増給スヘキ約定ノ五十
 圓ヲ未タ此三ヶ國ノ條約整ハサルモ既ニ米國トハ
 完全ニシテ且吾カ利益トナル條約ヲ成シ他モ之レ
 ニ倣フヘキ基本ヲ興セシ慮ヲ以テ特別ニ今ヨリ増
 給可相成充其名目ハ時々夜間ノ奉仕有之ニ付増給
 云々ト可致

米國政府等ノ外國郵便局長ハ其局務ノ全般ヲ務
 理致候迄ニテ其郵便物取扱ノ業ニ至テハ其局長

ノ親シク當ルヘキニ無之候ヘ尺吾外國郵便局ハ
 事業ノ小ナルヲ以テ其人ノ少キヨリ日本官吏ハ本習熟
 長専ラ之レニ當リ候故夜間ト雖尺如此奉仕候儀
 ニ有之是等ハ同氏ノ豫ノ前見セサリシ所ニシテ
 全ク算外ノ増務ナリト毎々苦情有之候ニ付本文
 ノ如ク相成候ハハ満足シテ相勤可申候

而三年ノ後ニ至リ候ハハ總テ本邦人ヲ以テ此事業
 フ執行為致度ニ付其目的ヲ以テ即今已ニ而三人ヲ
 之レニ當テ猶追々増負シテ實業及ヒ是レニ属スル
 諸般ノ事務法律ヲモ學ハシメ度候處同氏ハ是等ノ
 者ヲ教授スヘキ義務ナキヲ以テ全ク傳習ノ道無之
 又之レヲ責ムヘキ權利モ無之ニ付假令幾負ヲ當テ
 幾年ヲ經過スル尺其目的ニ達シ難ク候間更ニ約定

ヲ設ケ日々事務ノ都合ヲ繰合セニ時間宛右ノ者ヲ
教授為致且現場ノ事務取扱方ヲモ信切ニ傳習為致
其教授料トシテ月額百圓ヲ御給與相成度

壬申五月中別紙乙号ノ通相伺御許可有之候ヘ
實際ノ都合ヲ以テ其儘打過候ヘ已ニ即今ノ場

合ニ至リ候上ハ前條ノ理情無之トモ別段相伺度
心得ニ有之候故ニ本文ノ如ク御許可相成候ハ、

旁以好都合ノ仕合ニ候

年限ノ儀ハ今ヨリ四五ヶ年間位ハ必要ニ可有之ト

存候ヘ先ニケ年本文ニケ年ノ期限ハ元約定ノ期
限猶一ヶ年有之候ニ付其實ニケ

年ノ延期ト相定ノ其満期ノ節ノ模様ニ因リ猶其年

期ヲ相童子候方可然ト存候

前書御許可ノ上ハ約定書改正可致積リニ候

前條具陳ノ通御裁可相成候ハ、同氏ハ其實ヲ得滿

足ヲ以奉仕可致吾ニ於テモ一舉兩得ノ全効ヲ治メ

且他ノ差響ニモ不相成最良手段ト被存候條何卒急

速御裁決被下度依之改正約定書案其外別紙相添此

段相伺申候也四月七日
内務

伺ノ趣開届儀係改正條約書案貼紙ノ通改正可致事

但大藏省ヘハ其省ヨリ可致通達事 五月三日

約定書案

甲部日本天皇陛下政府ノ驛遞頭ト乙部米合衆國サ

ミエールエムブライアン氏ト取結タル改定約定ノ

覺

去明治六年二月十四日大藏大輔井上馨閣下トサミ

エールエムブライアン氏トノ約定ニ同氏へ月俸四百

五十圓ヲ給シ合衆國英國佛國及ヒ日耳曼國ト郵便
 交換條約ヲ成セルノ日ニ至リ五百圓ニ増給スヘシ
 ト掲載セリ然レモ乙部ハ既ニ合衆國ト此條約ノ協
 議整頓シ且他ノ三ヶ國モ此條約ヲ引受クヘキ端緒
 ヲ成セシヲ以テ已ニ明治六年二月十四日ノ約定完
 成セルト同般ニ見做シ且事務ノ執行時々夜間ニ至
 リ其勞甚ク多キヲ以テ其三ヶ國ノ條約完成ノ後ニ
 増加スヘキ五十圓ヲ今茲ニ甲部ヨリ増給スヘシ
 前條記載ノ故ヲ以テ乙部ハ晝夜ニ奉事シ且彼
 三ヶ國ノ條約ヲシテ速ニ整ハシムヘキ處置ニ盡カ
 スヘシ又其三ヶ國或ハ其三ヶ國中何レノ一二國ノ
 條約ヲ整ヘ隨テ事務ノ増殖アルモ其時ニ方リ甲部
 ニ向テ増給ヲ要請スヘカラス

乙部ハ横濱郵便局ニ於ケル日本士負ノ内十名ヲ限
 リ日々便宜ノ時ヲ以テ二時間ツ、郵便ニ属スル規
 律其他ヲ教授シ且實際ノ取扱方法ヲモ其實際ニ臨
 ハ毎ニハ必ス信切ニ傳習スヘシ故ニ其教授傳習料
 トシテ月謝一百圓ヲ甲部ヨリ附與スヘシ
 乙部ハ外國郵便局長ニシテ其向ニ於ケル尋常ノ事
 務ハ專決執行シ得ヘシト雖モ其重大ノ件ハ勿論規
 則方法ノ變更吏員ノ黜陟及ヒ費用ニ関スルハ必
 甲部ノ允許ニ因ルヘシ
 此約定ハ調印ノ日ヨリ三ヶ年ヲ以テ期トナス然レ
 トモ滿期ノ後猶甲部ハ乙部ノ雇入ヲ要スルハ相
 當ノ延期ヲ約スルヲアルヘシ
 前條ノ他ハ明治六年二月十四日ノ原約定ノ通りタ

ルヘシ

年月日此改定約ヲ證スル為ノ共ニ手書調印ヲ以テス

年月日

驛 遼 頭 前 島 密

サミユールエムブライアン

外國郵政長官サミユールエムブライアン書翰 驛遼頭宛

皇米郵便交換條約ニヨツテ日本國ニ得ル所ノ利益ヲ論スルニ第一日本國始メテ合衆國ノ承認ニヨリテ其海外郵便ヲ管理スヘキ固有ノ權ヲ回復シ隨テ日本ニ於ケル米國郵便局ヲ閉鎖シ苟モ文明ト稱スルノ國ハ悉ク日本郵便切手ヲ以テ信書ヲ交通スルヲ得ルニ至レリ且其締約ノ條件ハ大ニ皇國ノ利益ナルハ茲ニ細論スルヲ要セス假令ハ合衆國へ遼

送スル信書ハ盡ク其稅ヲ收入シ合衆國ヲ通過シテ他國へ遞送スル郵便物ハ一通分十五セントノ稅ヲ收メ而シテ之ヲ遞運スルニ至リテハ秋毫モ費ス所ナク其費用甚僅少ニシテ收入ノ稅額ヲ以テ其局ヲ支フニ足ルノミナラス日本國ヲシテ他ノ萬國ト對等ノ權利ヲ得セシムルノ起原ニシテ合衆國首トシテ之ヲ承認シ他ノ各國又必ス其例ニ倣フヘシ故ニ拙者米國華盛頓府ニ於テ著手成功ニ及假事業ハ實ニ日本國ノ光榮ヲ快撫シ獨立國タルノ權利ヲ回復スルノ端緒タルヲ獨リ拙者ノ私論ノミナラス苟モ世務ニ老練シ其地位ニアツテ日本政府ノ為ニ此條約後米ノ結果如何ヲ會知スルノ見アル者ノ公論ニ可有之候

既ニ往已ニ此ノ如ク猶將來ノ為ノニ思量スルニ何等ノ勞苦何等ノ費用ヲ問ハス此外國郵便ノ業ヲシテ益盛大ノヲシムル様イタシ度候然ルニ當今日本政府ト外國人民トノ間ニ存スル關係ヲ察スルニ一種奇怪ノ實況ヲ現シ候ニ付歐米各國ニ於テ外國ニ於テ外國郵便尙長ニ委任スルカ如ク同一ノ全權ヲ拙者へ御委任相成候儀ハ最モ緊要ト存候然ル片ハ欣然其責任ヲ負擔シ拙者本職ノ間必ス此業ヲシテ日々盛大ナラシムルヲ保誓可仕候

拙者貴國政府ノ為ノニ奉職致候儀ハ固ヨリ志願ノ下ニシテ殊ニ拙者始メテ此外國郵便ヲ創業シ其長トシテ猶益盛大ナラシムルノ責任アルカ為ニ此業ノ日々盛大ニ至ルヲ以テ一身ノ光榮ト仕候へ此亦

退テ妻子ノ為ニ後來ノ目途ヲ立サルヲ得ス故ニ聊カ他ニ顧念スル所ナキニアラス願ハクハ可成大速ニ拙者御雇定約ヲ御改締有之此業ノ彌盛大ニシテ諸事齋頓ニ至リ候迄假令ハ五ヶ年ヲ期トシ其事業ノ大ナルト其責任ノ重キヲ御諒察被下責テハ他ノ御雇外國人ノ中其功業責任ヲ把テ拙者ノ功業責任ニ比スレハ十ク一ニ足ラサル者ト同額ノ俸給ヲ御給與被下度奉懇願候此交換條約ノ如キハ日本ニ需ムル要ノモノ甚僅少ニシテ日本ニ許スモノ甚ク夥大ナルノミナラス殊ニ歐洲各國トノ條約是ヨリ整理スヘキノ基礎シルヲ以テ此條約協議ノタノ米國華盛頓府ニ於テ拙者執筆ノ勤務ニ比スレハ前文敢テ過稱ニアラサルヤト存候且外國郵便開業ヨリ

未タ三十日ヲ出スシテ一般ノ稱譽ヲ受テ初メ日本
於テ海外郵便ノ事業ハ其成功ヲ見ルニ至リ俄然レ
其茲ニ至ル迄ノ勤勞ハ一朝一夕ノトニアラス晝
夜匪懈其業ニ從事スルノ功績善良ノ稟實ヲ生シ候
乍然拙者ノ公務及ヒ一身上ニ於テモ諸事快適ニシ
テ勤勞上不都合ノ件々ハ悉ク更正セラレ殊ニ閣下
愛國ノ念深ク官事一身ノ安逸ヲ顧ニス偏ニ貴國
ノ人民ヲシテ開明ノ區域ニ進マシメントスルノ御
志意ニ至リテハ實ニ拙者ノ尊敬稱讃スル所ニシテ
且私一身ノ丁ニ於テハ萬事御懇親被成下候段并謝
ノ至ニ奉存候頓首 一十八百七十五年一月二十日
内務

大藏省令

郵便取扱ノ儀ハ別ニ高尚洞博ノ理論精微微妙ノ技

術ヲ望マス唯一般ノ方法ニ就キテ其練熟ヲ最要ト
致シ候故即今ニテハ差支ノ筋モ無之候ヘ氏他日外
國郵便御開ノ節其筋習熟ノ属負然之候テハ果シテ
御差支可相成候間今ヨリ二十歳以上ニテ従来英文
ヲ學ヒ且洋算ヲ心得居将来其職ニ可勝目達有之候
者十名程左ノ試業法ヲ以テ相換且別紙ノ約束ヲ以
テ驛邊寮傳習生徒トシテ横濱表ニ於テ先ツ英語ノ
通辨ヲ學ヒ追々在横濱英米郵便役所士官ヘ其取扱
振傳習為致候様仕度施テハ右生徒ヘ為學費一ヶ月
一人ヘ金七圓ツ、被下且其教師ヘハ謝儀並辨書ノ
類ハ別段下渡候様仕度此段奉伺候也 士申五月三日
内務

伺ノ通

甲部日本皇帝陛下政府ノ大藏大輔井上馨閣下ト

乙部亞米利加合衆國住民サミエールエムブレア
ン氏ノ間ニ取結タル定約ノ覺

甲部ハ亞米利加合衆其他ノ開化シタル此世界ノ國
民ト郵便ヲ開クヘキヲ欲シ且乙部ノ日本政府驛頭
頭ノ命令ヲ奉シ其允許ニ隨テ此郵便ヲ定業シ且是
ニ從事センヲ欲ス乙部モ亦此業ニ從事センヲ布フ
是ニ於テ左ノ條件ヲ約定セリ

若シ乙部ハ右驛頭ノ允許ニ隨テ充分ニ事ヲ執リ
約定年限中此郵便ノ業ヲ定メ且其取扱ヲ務ルルハ
甲部ヨリ一ヶ月四百五十圓ヲ俸金トシテ乙部ニ給
スヘシ但是ハ此約定書調印ノ日ヨリ初メテ合衆國
英國佛國及ヒ日耳曼國ノ此郵便條約ヲ引受クル日
迄續クルモノトシ然ル後乙部ノ俸金五百圓ニ昇ル

ヘシトス

甲部ヨリ乙部ニ此年限中横濱ニ於テ適當ナル家宅
ヲ家具ヲ設ケスシテ供給スヘシ

乙部ハ成ルヘク速ニ合衆國華盛頓府ニ往キ同行ニ
於ケル日本政府ノ公使ノ手ヲ經テ日本ト合衆國ト
ノ郵便ヲ同等ノ基礎ヲ以テ規則ヲ定テ且之ヲ定業
スヘキ條約ヲ彼適任士官ト共議スヘシ

甲部ハ乙部ノ薦舉ニ據テ郵便ノ事業ニ就キ大ニ熟
練シ且其細目ヲモ全ク領會シタル助官一名及ヒ書
記三名ヲ用ユヘシ

甲部ヨリ此約定書調印ノ日ヨリ三年ノ期限満ルノ
時カリホルニヤ洲サンフランシスコ迄ノ一等旅客
船賃ヲ乙部ニ與フヘシ

乙部ハ病疾ニテ此約定ノ事務ヲ執リ能ハサル一
ケ月ニ過レハ其引入中ノ金ヲ減セラレヘシ
若シ乙部其職務ヲ怠リ或ハ不法ノ所為アルハ甲
部之ヲ免職スルノ自由ヲ保スヘシ

此郵便條約合衆國適任ノ士官ヨリ一致協議スルニ
於テハ即チ此約定モ亦此ノ調印ノ日ヨリ三ヶ年ノ
間確然タルヘシ

前件ノ如ク乙部ニ於テ疾病及ヒ他故ニヨリ一ヶ月
以上其職掌ヲ奉スル能ハサルヲ以テ俸金ヲ減却ス
ル等ニ関涉スル此條約ノ件々ハ乙部日本地内ニ在
留スルノ間ニ限ルヘシ

紀元一千八百七十三年第二月十四日此結約ヲ確
證スルニ共ニ手書調印ヲ以テス

大藏大輔井上馨

サミユールエムブレアン

財務課議案 内史本課歴查

別紙内務省伺驛巡察御雇米人ブライアン氏増給ノ
儀審案候處増給ノ儀ハ古條約書第二條ニ掲載セル
約束ノ次第モ有之ノミナラス明治六年七月第二百
六十五号公布ノ趣モ有之儀ハ同氏儀ハ能ク其任
ニ耐ヘ且非常ノ勉勵ヨリ米國トノ郵便ハ已ニ實地
施行スルノ完全ニ至リ且吾カ利益トナル條約ヲ成
就シ英佛日三ヶ國ノ條約モ是ヨリ整理スヘキ基礎
相立其功績モ顕然ニ有之加之特別増給相成儀儀ト
モ相違前書三ヶ國ノ條約完成ノ後可増加五十圓ヲ
令ヨリ給與致度百且又郵便取扱ノ術業傳習ノ儀ハ

新夕ニ兼務為致候儀ニ係ハハ右教授料トシテ月給百圓給與致度速何レモ事實無余儀相聞候間伺ノ通御許可相成改定條約書業貼紙ノ通改正候様御指令相成可然哉ニ存候因テ御指令業調査此段上陳儀也
四月廿二日 内務

八月十日 （五）

十九

驛遞寮雇ブライアン米國ハ差遣ニ付臨時費準備トシテ金壹萬圓ヲ下付ス

内務省伺

一金壹萬圓也

右ハ今般驛遞寮外國邦郵便課長ブライアンヲ米國ハ被差遣候儀ハ第一ニ太平洋郵便船會社ト米國驛遞院トノ約定ハ本年十二月限ニ付明年ヨリ何等ノ會社ト何等ノ約定ヲ以テ太平洋ノ郵便運送ヲ為スハキ同院ノ見込ナルカラ早ク探偵シテ更ニ日米郵便交換條約第十二條ノ保續ヲ謀リ第二ニ太平洋ノ郵便運送ハ何様ノ船舶ヲ以テスルモ總テ米國驛遞院ニテ之ヲ擔負セン事ヲ同院ハ希望シ第三ニ其報

四十

十九

太政官